なり、いやしきのみならず亂の基なり、小を以ていはゞ、家内の者にくみ疎み、いさかひ絶ず、大を以ていはゞ、天下の萬民恨み背く、亂の本とは此事なり、又金錢を塵埃をはらひ捨る如くに、妄につかひ捨て、人にほこる人あり、是は奢侈といふものにて、是も又亂の基なり、金銀をしめこみて、つかはぬも又惡し、みだりにつかひ捨るも惡し、其中分を取て、つめゆるみを能程にするを儉約といふなり、

〔本與錄上〕一儉約をむねとすといへども、儉約と吝嗇と似て非なるものなり、儉約とは其分をうちばにすることなり、人君には人君の分際あり、卿大夫には卿大夫の分際あり、其分をこゆるを奢といふ、其分よりうちばにするを儉約といふ、吝嗇には世にいふ玄わくさもしきをいふ、世に儉約の名を假て、吝嗇を行ふもの多し、吝嗇なるものは、必不仁にして慘刻なるものなり、儉約の名を以て、玄わくむさく人情にはづれて、人の苦をも顧ず、人の心もはなるゝものなり、是故に孟子爲富不仁なりといへり、儉約と吝嗇との分、是また辨ふべき事なり、凶德と盛德との界なり、吝嗇の人は必不仁と玄るべし、

〔年成錄〕雜議

仁惠の政を行はんとならば、まづ儉節の法令を立べし、上下とも儉節を守りなば、仁惠の行とゞかぬことはあるまじきや、

儉とはもとすこし疵あることばにて、大中至正の道にはいまだかなはざる文字なり、然るに泰平うち續きて、華侈にならひきたる世中なれば、心ある人、至極儉節を守ると思ひても、いまだ大中至正まではゆきいたらず、尙華侈の風の殘りたるこそ、多かるべければ、儉とのみ心おきして、其失はなきことなり、故に儉の失に遠慮なく、今の世にては儉節を國是とすべし、もし後年儉の失のいで來る時は、又智ある人々、其よしを申たまへ、今にてはいはず、